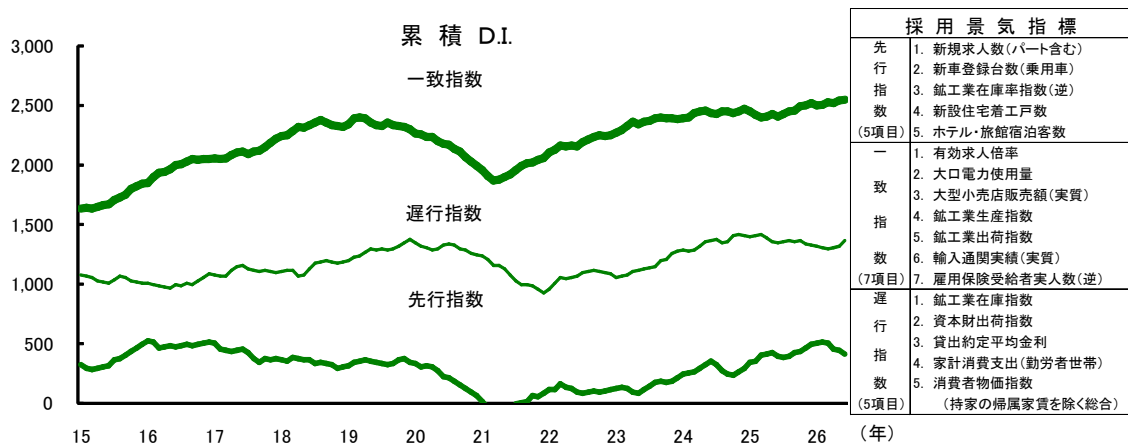


1. 景気動向指数

平成 26 年 6 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、鉱工業生産指数、輸入通関実績（実質）、雇用保険受給者実人数（逆）の 4 項目がプラスとなり、全体では 57.1%と 2 カ月連続で 50%を上回った（7 項目のうちプラス 4、マイナス 3）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）の 1 項目がプラスとなったものの、全体では 20.0%と 4 カ月連続で 50%を下回った（5 項目のうちプラス 1、マイナス 4）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、資本財出荷指数、貸出約定平均金利の 5 項目がプラスとなり、全体では 100.0%と 3 カ月連続で 50%を上回った（5 項目のうちプラス 5、マイナスなし）。



注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)
一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。
資料)宮崎県県民政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行性を表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

6 月の鉱工業生産指数は、98.9 で前年同月比 9.4%増と 12 カ月連続で前年を上回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス（前年同月比 15.3%増）、食料品（同 23.2%増）、化学（同 12.0%増）、繊維（同 2.0%増）の全てが前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

8 月の公共工事請負高は、100 億 7,400 万円で前年同月比 40.0%減と 3 カ月ぶりに前年を下回った。

発注者別にみると、国が同 44.3%減、県が同 38.6%減、市町村が同 50.8%減、その他（独立行政法人等）が同 139.1%増となった。

② 着工建築物

7月の着工建築物は、棟数503棟で前年同月比5.5%減、床面積は10万5,218㎡で同23.3%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数同21.6%減、床面積同10.6%減となり、非居住用は棟数同71.0%増、床面積同90.5%増となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用同1,090.3%増、商業用同501.4%増、サービス業用同28.3%減となった。

③ 住宅着工

7月の新設住宅着工戸数は、552戸で前年同月比6.0%減と5カ月連続で前年を下回った。

利用関係別にみると、持家は同25.6%減、貸家は同9.5%増、分譲は同49.1%増（マンションは前年0戸→本年48戸、一戸建てが同57戸→37戸）となった。

4. 個人消費関連

① 大型小売店販売動向

7月の大型小売店販売額は、75億8,200万円で前年同月比3.3%減と4カ月連続で前年を下回った。

商品別では、衣料品は16億9,400万円で同9.5%減、飲食料品は34億100万円で同1.3%減、その他計は24億8,800万円で同1.4%減となった。

② 乗用車新車販売動向

8月の乗用車新車登録台数は、1,512台で前年同月比2.8%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

車種別にみると、普通車は624台で同8.7%増、小型車は888台で同1.0%減となった。

③ ゴルフ場入場者数

8月のゴルフ場入場者数は、5万2,945人で前年同月比0.5%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

内訳をみると、メンバーが1万780人で同4.9%減、ビジターが4万2,165人で同2.0%増となった。

なお、ゴルフ場18施設のうち10施設で前年を上回った。

5. 空港乗降客数

7月の宮崎空港乗降客数は、23万942人で前年同月比3.3%減と3カ月ぶりに前年を下回った。

乗客数は11万2,491人（前年11万6,088人）と減少し、降客数も11万8,451人（前年12万2,774人）と減少した。

6. 消費者物価指数

7月の宮崎市の消費者物価指数は、103.4で前年同月比3.6%上昇した。

これを費目別にみると、光熱・水道（前年同月比6.1%増）、食料（同5.1%増）、交通・通信（同4.6%増）など10費目の全てが上昇した。

7. 企業倒産

8月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は、3件で前年同月比25.0%減と2カ月連続で前年を下回ったが、負債総額は7億4,900万円で同99.7%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

業種別では、サービス業2件、卸売業1件となっている。

8. 雇用情勢

7月の有効求人倍率は、0.93倍で前月から0.04ポイント悪化した。

新規求人数は、7,771人で前年同月比5.1%減となった。

農、林、漁業は同47.2%増、情報通信業は同36.7%増、生活関連サービス業、娯楽業は同19.1%増など9産業が増加となった一方で、運輸業、郵便業は同34.2%減、宿泊業、飲食サービス業は同26.4%減など9産業が減少した。

雇用保険受給者数は、6,338人で同6.9%減と26カ月連続で減少した。

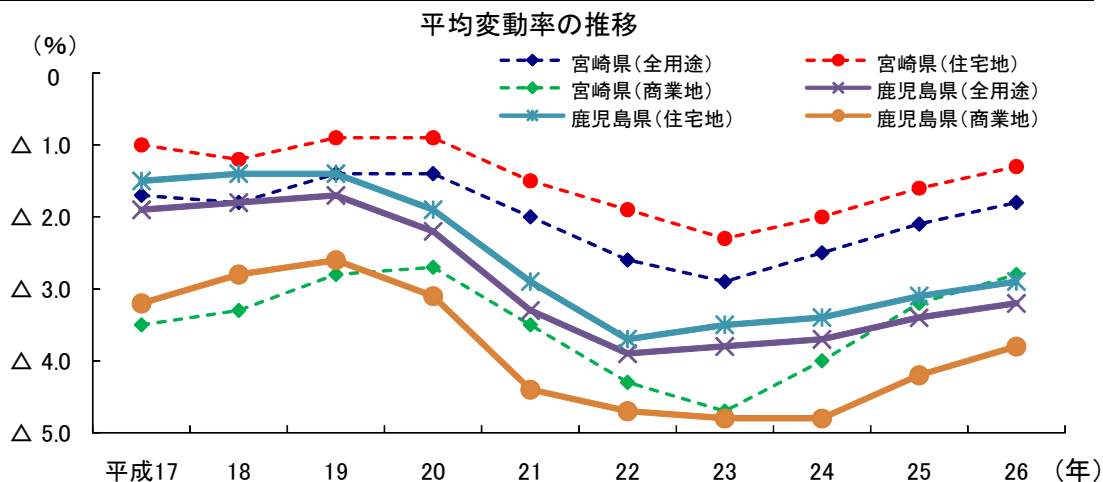
〈今月のトピックス〉～ 平成26年の基準地価

宮崎県は「平成26年地価調査結果の概要」で、7月1日現在の基準地価を公表した。商業地は23年連続で下落、住宅地も15年連続で下落したものの、全用途の平均変動率は前年比1.8%減とマイナス幅は縮小し、住宅地では6年ぶりに上昇地点もあるなど、地価に底打ちの兆しが出てきた。

平成26年の基準地価（7月1日現在）

（単位：%、円/㎡）

	平均変動率				基準地価格	
	全用途	住宅地	商業地	工業地	住宅地	商業地
宮崎県	△ 1.8	△ 1.3	△ 2.8	△ 1.7	24,600	41,100
鹿児島県	△ 3.2	△ 2.9	△ 3.8	△ 3.4	28,400	78,400



資料) 宮崎県、鹿児島県